

4-1-12 臨床検査部

臨床検査部は、病理検査室、高度先進検査室、生理検査室、細菌検査室、輸血検査室、中央採血室、および院内ブランチラボで構成されている。部長は19年6月に田中敏章の退職に伴い、8月から奥山虎之遺伝診療科医長が昇任した。病理検査室長は17年4月に中川温子室長が着任し、現在に至っている。輸血検査室長は熊谷昌明小児血液科医長、高度先進検査室長は奥山虎之臨床検査部長、生理検査室長は久保田雅也神経内科医長が併任している。また、2006年4月より2008年3月まで、渡辺紀子先生がレジデントとして病理専門医を目指して研修を行った。

技師では、19年4月に藤澤京亮技師、湊川靖之技師が転出したため、後任として中村良幸技師、安井一浩技師が転入した。7月には山田稔技師の退職のため、山崎茂樹技師が主任技師として転入した。また、10月には、上野晴菜、東澤恭介両技師が新規採用となった。20年1月には市川一三 副技師長が技師長として転出したため、後任として石井幸雄現副技師長が転入した。

臨床検査部における経営改善の一環として、保険未収載検査の乱用を避けるために16年度から立ち上げた保険未収載検査審査委員会の活動によって、削減する方向で進んでいる。また、院内ラボにおける緊急性の低い検査の院外化の検討を行を続けている。この作業は、独立行政法人化をみずえてさらに進める必要がある。